

令和5年10月に開催されたうぐい突きで、所属しているサークルの露店販売に参加し、谷尾さんや会下集落のみなさんとの出会い、現状や思いを聞いたことがきっかけでプロジェクトに携わるようになりました。

うぐい突きを若い世代に広め会下を知ってもらうため企画立案、会下のみなさんとの交流、芝桜の管理の手伝いなどを行っています。また、令和5年11月に「うぐい突き広め隊」というチームを発足させ、Instagram とうぐい突きの魅力を発信しています。今後はXとYouTubeにも参入する予定で、うぐい突きや会下に興味を持ってもらえるよう活動を行っています。

若い力を生かして



公立鳥取環境大学1年生
越智 彩希さん

声をかけてもらえることがやりがいになっています。まだ始まったばかりの活動ですが、会下集落・うぐい突きに向けた思いは人一倍あります。また、今年2月の環大コンペにて活動の発表を行い、社会部門2位とルーキー賞を受賞しました。自分たちの企画に対する思いや考えをブラッシュアップし、他の出場者から新たな意見を得られる良い機会になりました。プロジェクトに参加し、うぐい突き広め隊を創設したことで、関わるものがなかったかもしれない会下のみなさんと関わるようになりました。「伝統を守る活動」に携わることで自分の成長にもつながっていると思います。これからみなさんと協力しながら行ってきたいです。



Instagram
更新中！



地域住民や学生と協力し 取り組んだ17年間

活動が始まったのはおよそ17年前、当初は草刈りや掃除などが主な活動でした。それまで無償だった作業が交付金の対象となり、最初は勢いがありました。しかし年数が経つうちに高齢化が進み、徐々に活力が失われ、継続できるか危ぶまれるようになりました。転機となったのは10年ほど前で、大学生や集落の青年部が活動に参加してくれるようになり、新たな活力が生まれました。また、交付金の制度に合わせて活動が拡大し、鳥獣被害対策や景観保全活動を始めました。大堤池への芝桜の植栽もこの時期から始まり、今では多くの人が訪れる名所となっています。



会下部落地域資源・環境
保全プロジェクト会長
谷尾 幹夫さん

再発見できたことと活力をもらったこと、この2点が大きいと感じています。住民とは違う視点での意見により、地域の魅力に改めて気付くことができたと共に、集落に元気を与えてくれました。伝統行事であるうぐい突きも、若い力があつて継続できています。また地元の小学生と交流するなど、地域の活性化にもつながっています。これらの取り組みも今回の受賞につながりました。

現在の活動をいかに継続していくかが今後の課題です。定年が延びることで農業に携わる人も減り、部落自体も人が減る一方なので、それらを考えて今後の計画を立てる必要があります。部落のみならず支え合っている世代にわたって心の豊かさを享受できるような地域活動を続けていきたいと思っています。



大堤池の芝桜



「会下方式」でかれんな苗を育成

毎年春になると、大堤池の堤や農道の法面にまるで絨毯のように芝桜が咲き誇り、多くの人が訪れます。特に大堤池は、遠くに鷲峰山を望む癒やしの農村空間として親しまれています。この芝桜は、山口県への先進地視察をきっかけに、集落の女性メンバーを中心に、集落の女性メンバーを中心として始まった取り組みで、地元の小学生も一緒に植栽しました。また、苗は誰でも簡単かつ低コストでできるよう独自に挿し芽を工夫する「会下方式」で育成を行っています。

うぐい突き



全国的にも珍しい農村文化の 伝承で地域活性化

大堤池では、毎年秋に池の水抜きや泥吐けに合わせて、春に放流したフナなどを取る「うぐい突き」が行われます。「うぐい」とは、竹で編んだ筒状の道具で、東南アジアから伝わった400年来の伝統漁法といわれ、鳥取県重要無形民俗文化財に指定されています。大堤うぐい突き保存会とプロジェクトのメンバーが中心となり、地元農家をはじめ地域内外から小学生や大学生がボランティアで参加してにぎやかに行われます。

多面的機能発揮促進事業中国四国農政局長表彰とは



☎ 本庁舎農村整備課（45番窓口） ☎ 0857-30-8316 ☎ 0857-20-3043

水路や農道といった地域資源の保管理など、農業が有する多面的機能の発揮を促進する事業において、優秀な取り組みを行う組織などに与えられる表彰です。

中四国管内の各県がそれぞれ1組織を推薦し、中国四国農政局による現地視察や選考委員会を経て、最優秀賞と優秀賞が決定します（令和5年度は最優秀賞2件、優秀賞7件）。



表彰の詳細



制度の詳細

